高校生における大麻使用の実態

-薬物使用と生活に関する全国高校生調査2018の結果より-

国立精神・神経医療研究センターでは、厚生労働省「依存症に関する調査研究事業」の一環として、
全国の高校生を対象とした薬物使用に関する実態調査を 3 年おきに実施しています。

※対象は全国からランダムに選ばれた高校に在籍する全校生徒です。2018 年調査では、全国 145 校に在籍する約 49,000 人の高校生がアンケートに回答していただきました。

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry

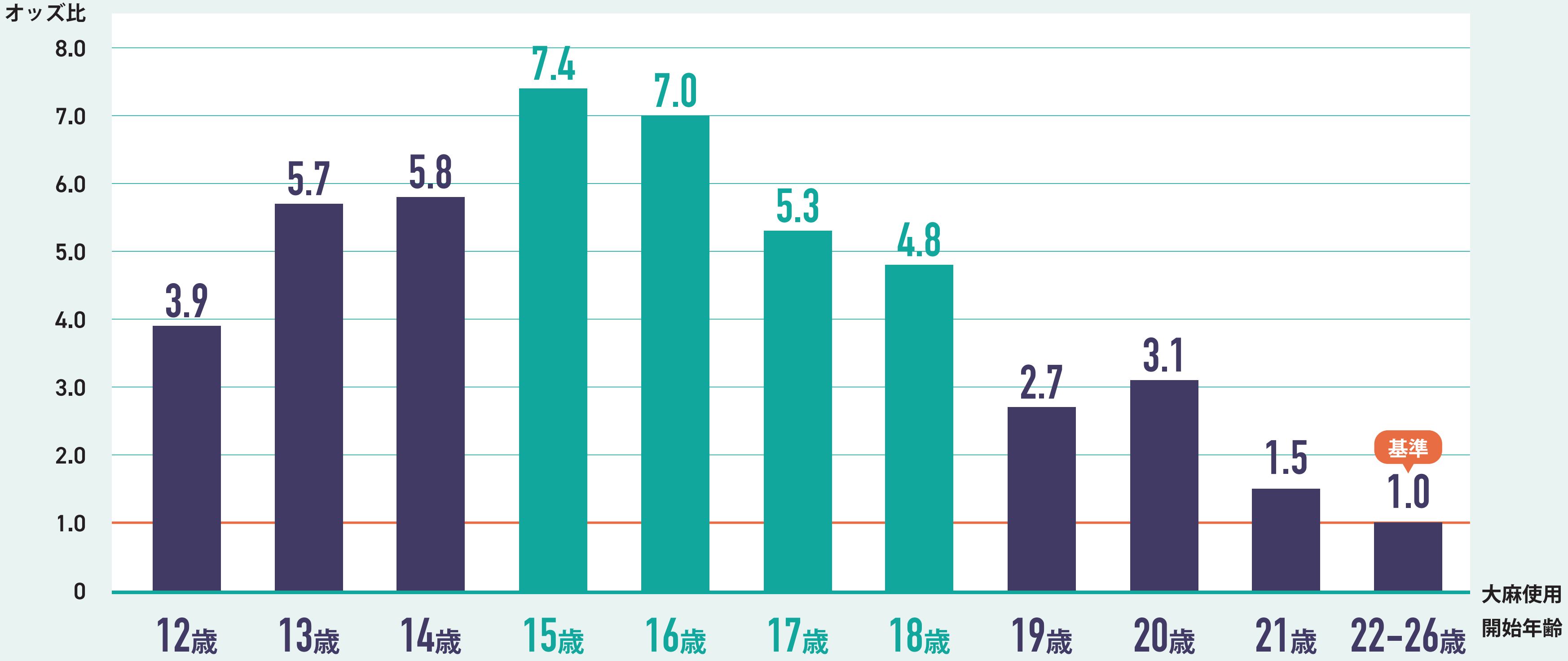
01 高校生の大麻使用と薬物依存症

若年期の大麻使用は、薬物依存症の発症リスクを高めます

15-18歳の高校生時期に大麻を使い始めた人は、成人してから使い始めた人に比べ、
薬物依存症を発症するリスクが5倍から7倍も高くなることが報告されています※

大麻の使用開始年齢と薬物依存症の発症リスクとの関連

大麻を22-26歳に使い始めた人が大麻使用障害（薬物依存症）となるリスクを基準（1）をした時のオッズ比



*Winters KC, et al: Likelihood of developing an alcohol and cannabis use disorder during youth: association with recent use and age. Drug Alcohol Depend 92(1-3): 239-247, 2008.

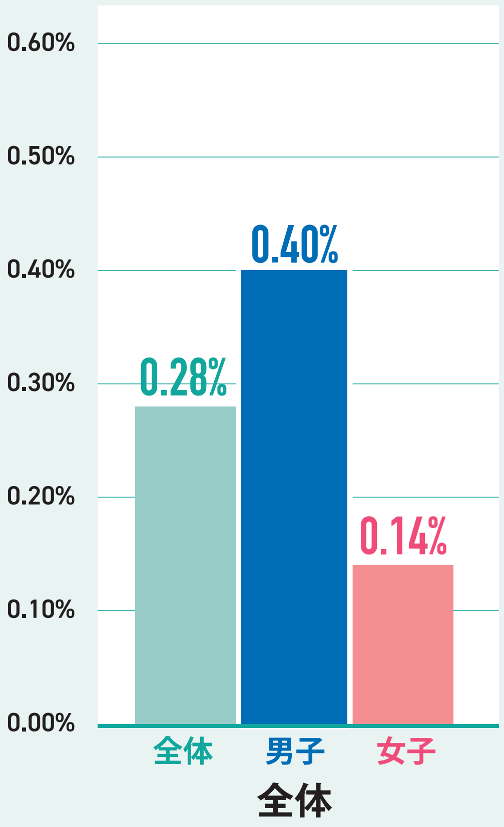
02 高校生における大麻の生涯経験率

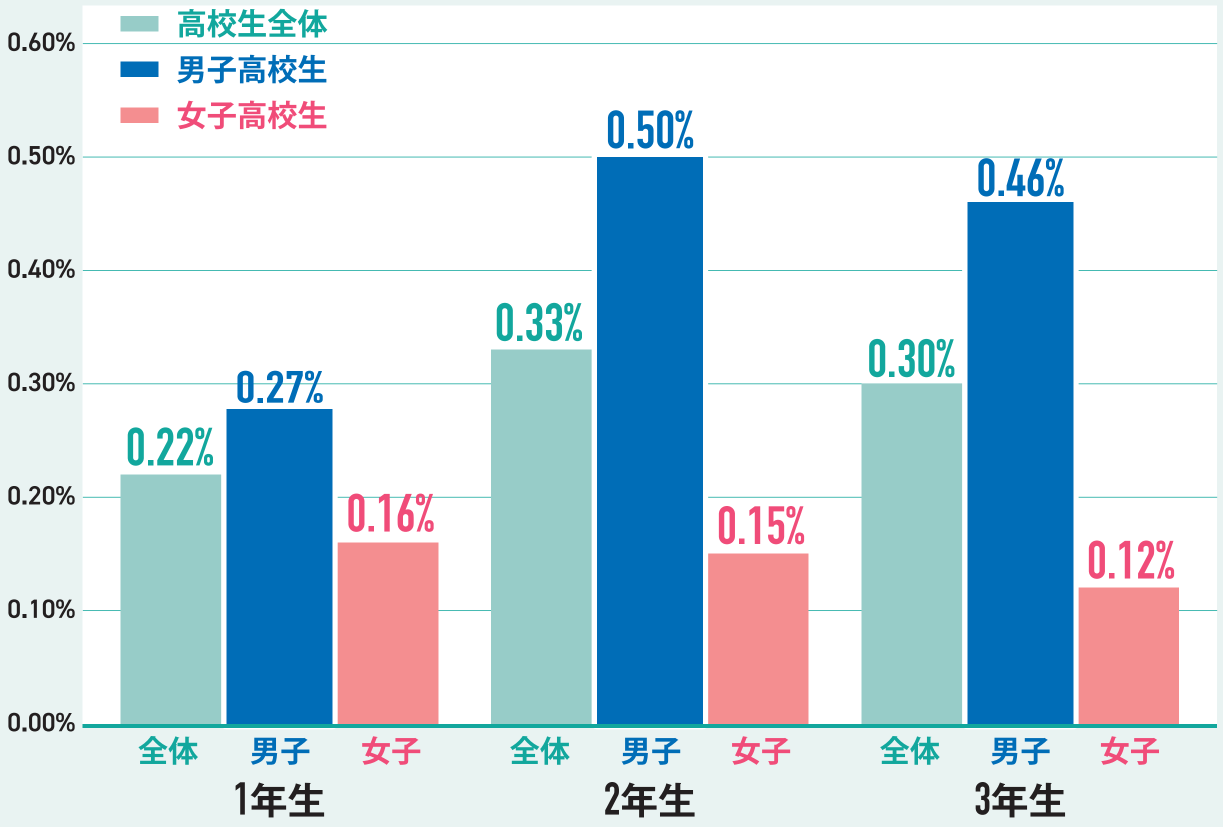
高校生における大麻の生涯経験率は0.28%

これは350人に1人の割合に該当します。

大麻の問題を抱える生徒は全国どこにいても不思議ではない状況と言えます。

※ 生涯経験率：一度でも使ったことがある人が占める割合



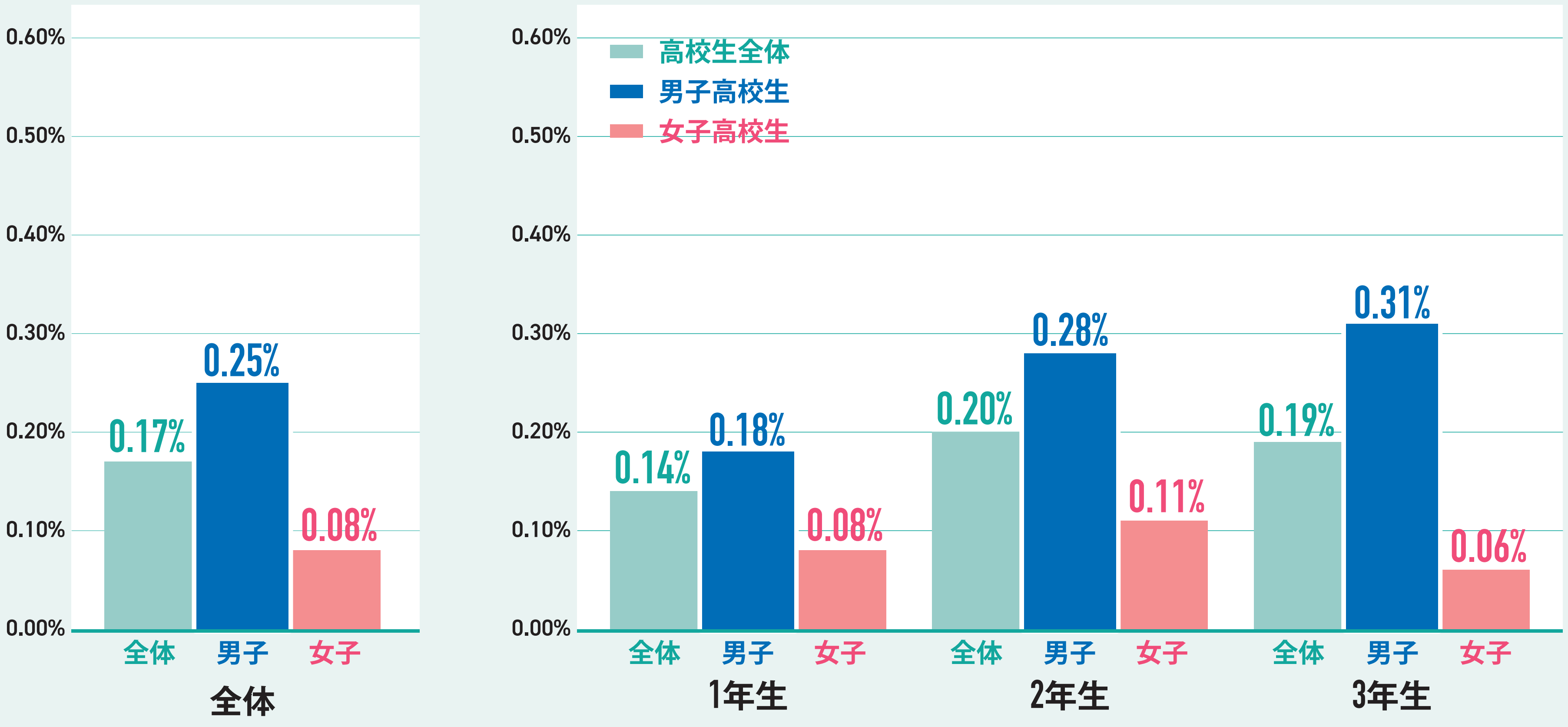


03 高校生における大麻の 1 年経験率

高校生における大麻の1年経験率は0.17%

この1年以内に大麻を使ったことがある高校生も報告されています。
1年経験率は、現在の薬物乱用の状況をより反映した指標となります。

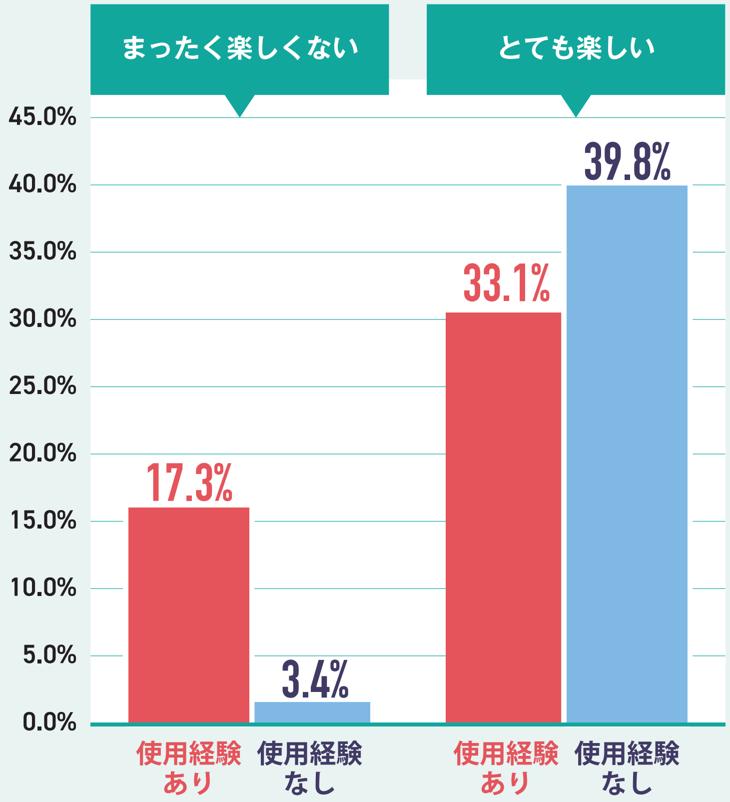
※1年経験率：過去1年以内に大麻を使ったことがある人が占める割合



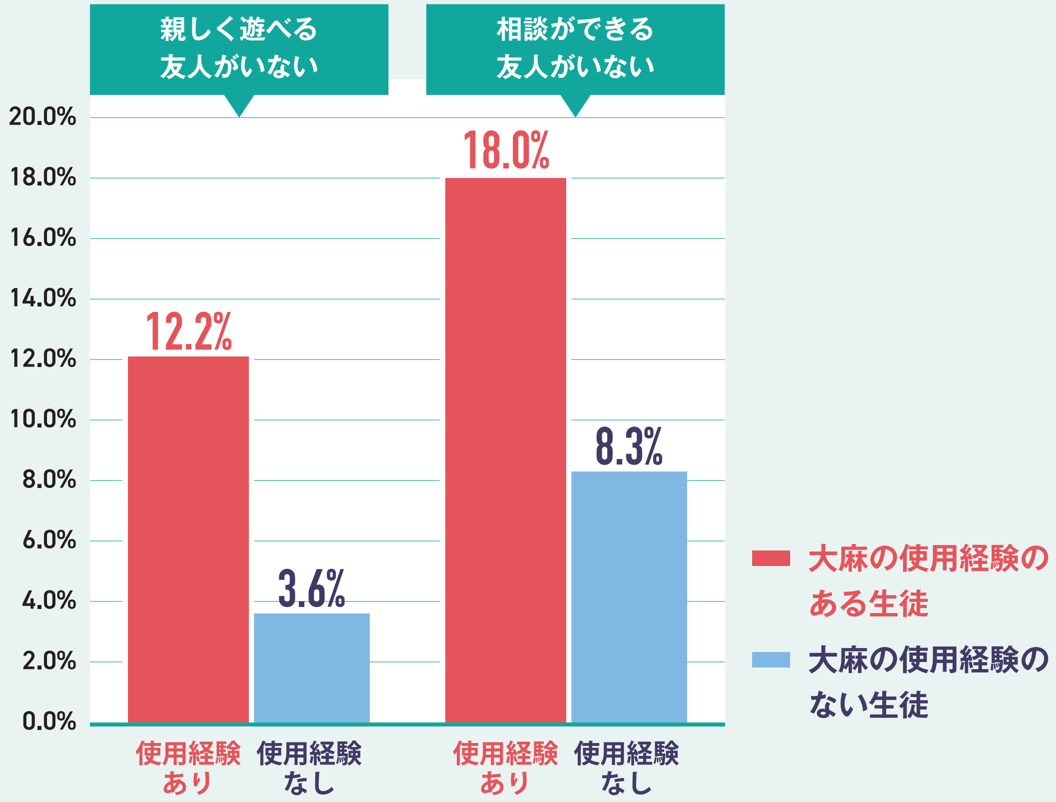
04 大麻の使用経験と学校生活

大麻の使用経験のある生徒は、使用経験のない生徒に比べ、学校生活が楽しくない、親しい友人がいない生徒が多いようです。

学校生活について



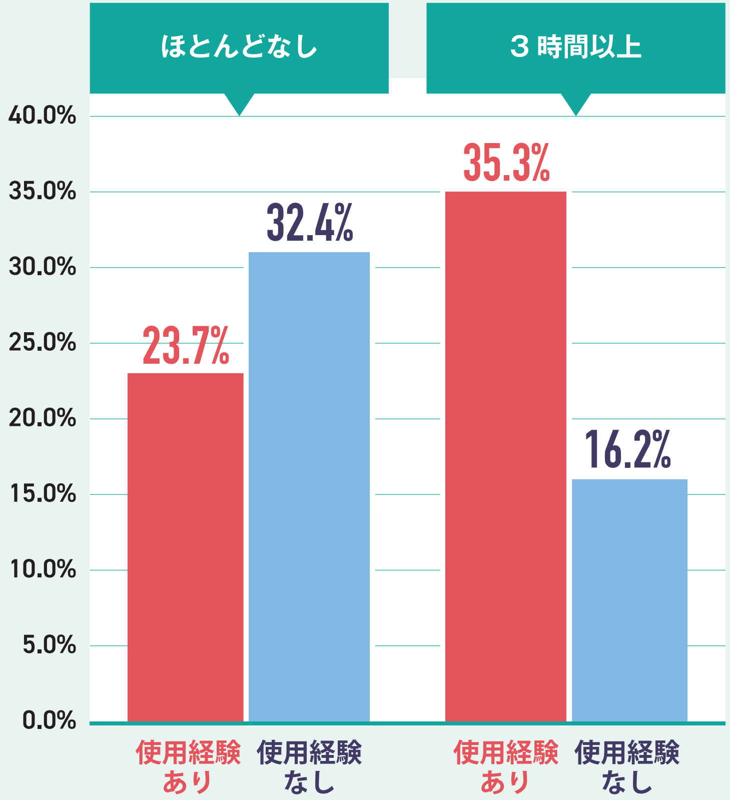
友人関係について



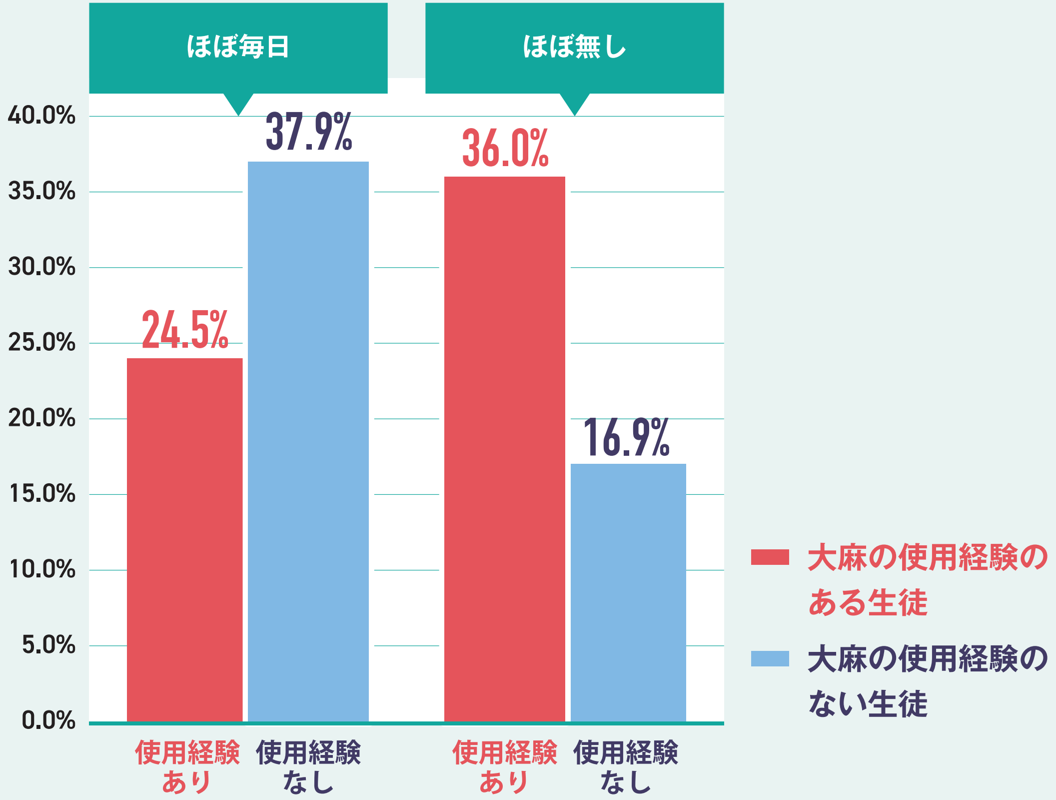
05 大麻の使用経験と家庭生活

大麻の使用経験のある生徒は、使用経験のない生徒に比べ、大人不在で過ごす時間が長く、家族全員で夕食を食べる機会が少ない生徒が多いようです。

大人不在の状態で過ごす時間



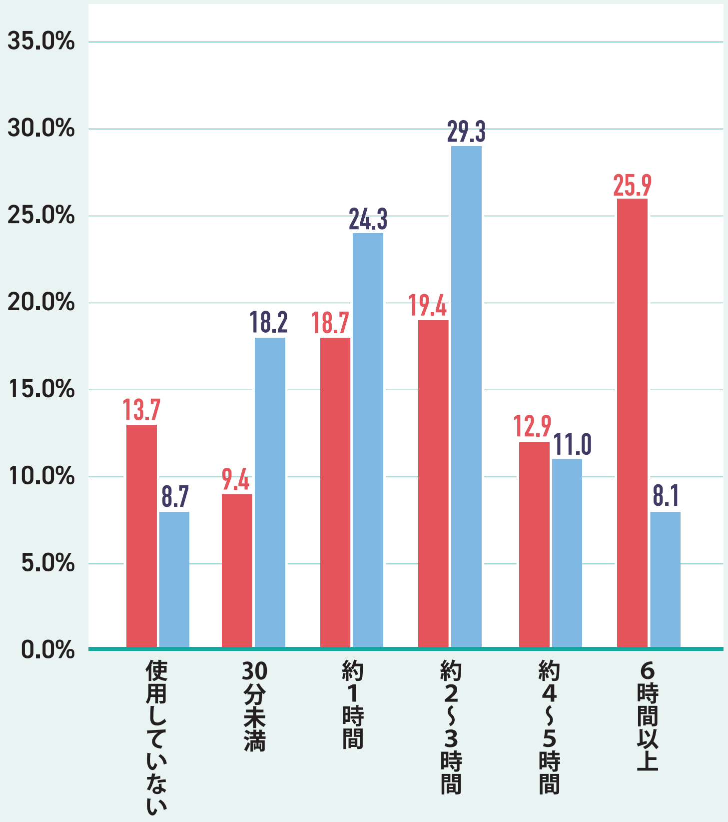
家族全員での夕食



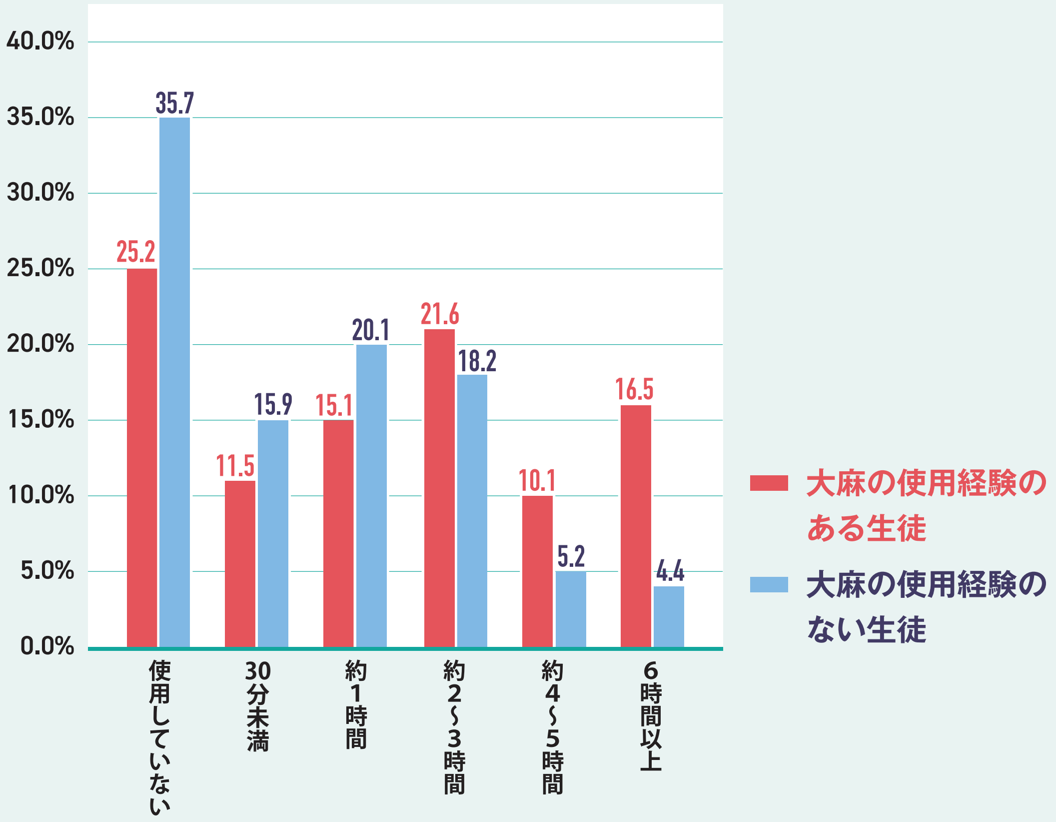
06 大麻の使用経験とインターネット・ゲーム

大麻の使用経験のある生徒は、使用経験のない生徒に比べ、インターネット（SNS,オンライン）の使用時間が長い生徒が多いようです。

ソーシャルメディア・SNS



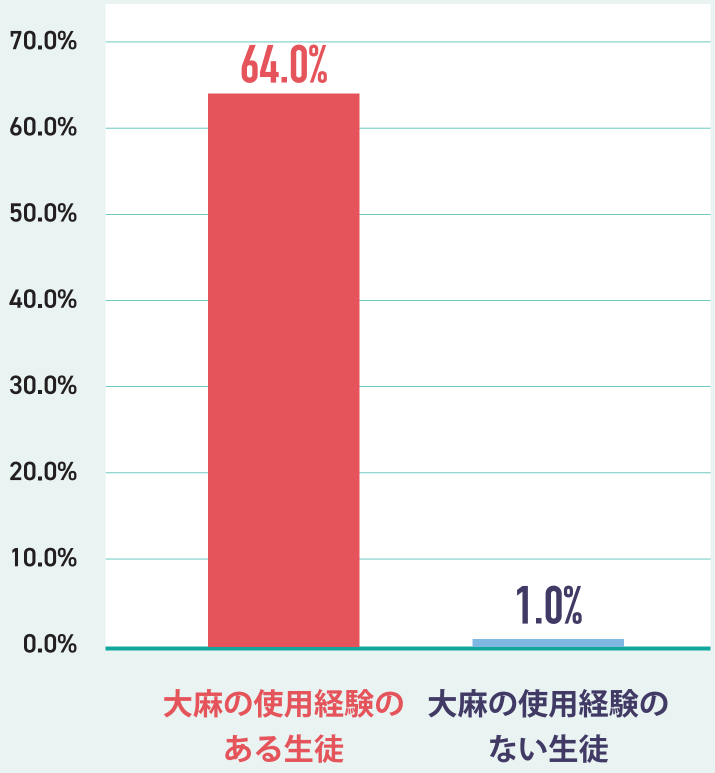
オンラインゲーム



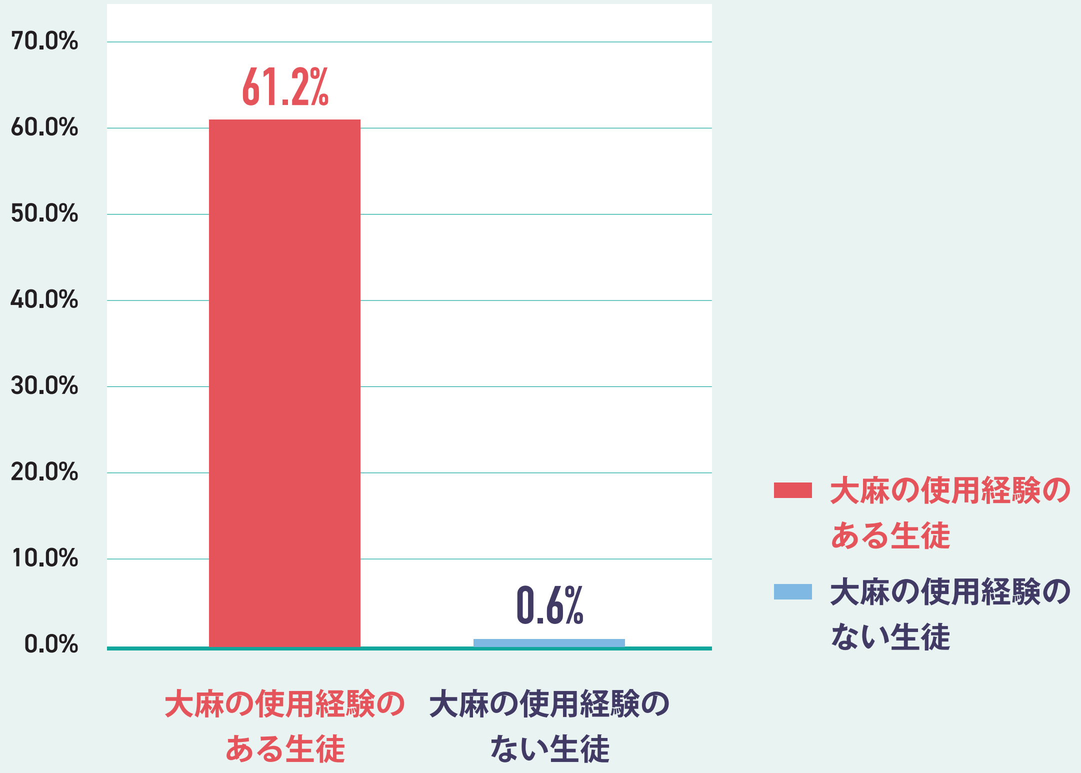
07 大麻は身近な人から誘われる

**大麻の使用経験のある生徒は、使用経験のない生徒に比べ、
身近に乱用者がいたり、
大麻使用に誘われる経験がある生徒が多いようです。**

大麻を使っている人が身近にいる

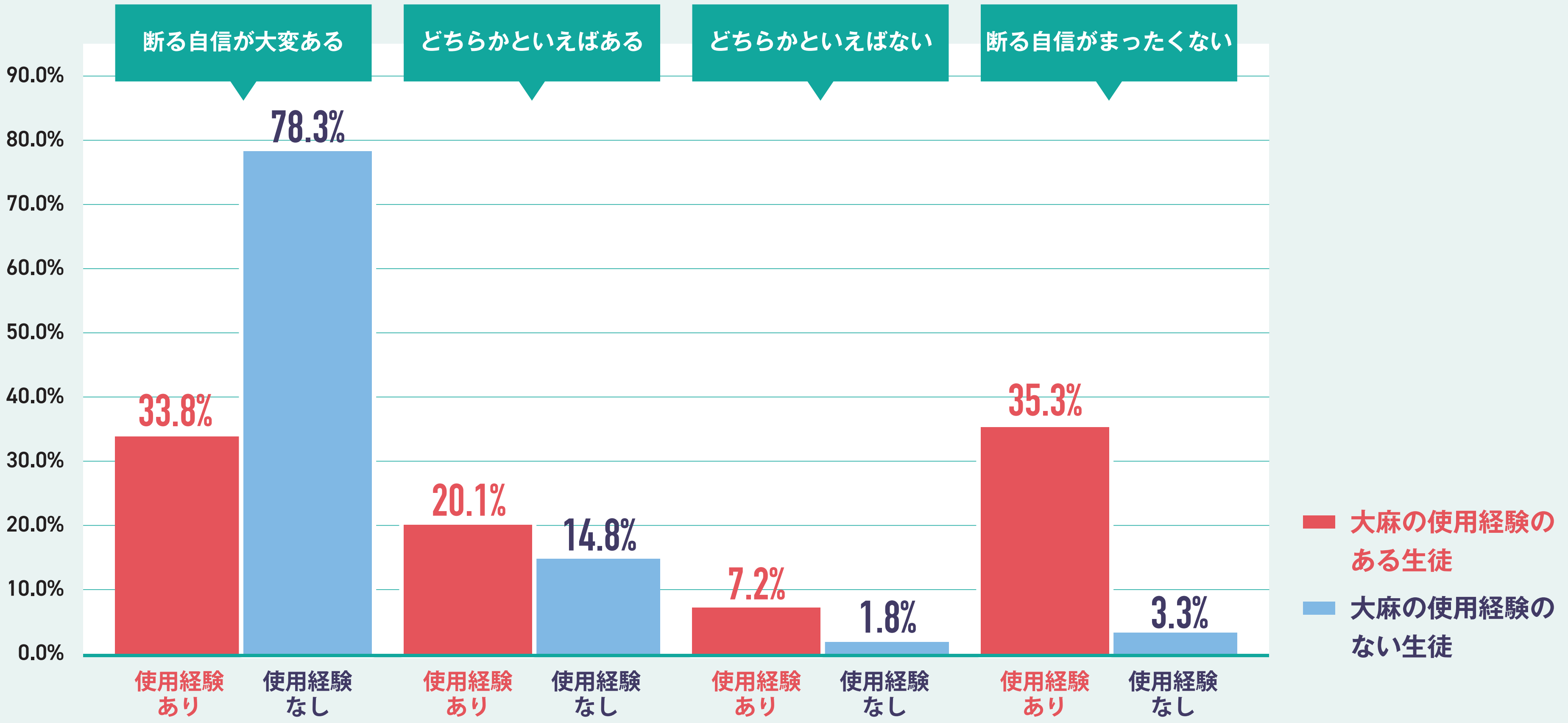


大麻使用に誘われたことがある



08 身近な人からの誘いを断る力を育む

大麻の使用経験のある生徒は、使用経験のない生徒に比べ、友人や知り合いから薬物乱用を誘われた時に、断る自信のない生徒が多いようです。



本冊子のご利用方法

- 本冊子は青少年の薬物乱用防止教育の関係者（教育関係者、保健医療関係者、行政関係者など）の方々にご活用いただくために作成しました。
- 本冊子をインターネット等でご紹介いただく際は、以下の出典およびURLを明記してください。
  引用：高校生における大麻使用の実態（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部）
- 本冊子に掲載された文章および図表については著作権が発生します。内容や数値を変えることなくそのままご利用ください。
- 本冊子は、令和２年度厚生労働省依存症に関する調査研究事業「薬物使用と生活に関する全国高校生調査」の一環として作成されました。

調査の詳細は、次の研究報告書をご覧ください。

https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/index.html

嶋根卓也, 猪浦智史, 北垣邦彦, 和田清, 松本俊彦：薬物使用と生活に関する全国高校生調査2018．令和元年度厚生労働省依存症に関する調査研究事業「わが国の青少年における薬物乱用・依存に関する実態調査およびデータ・アーカイブに関する研究（研究代表者：嶋根卓也）」研究報告書，pp1-53，2019.